

馬場轂里の墓



登録年月日	平成五年一月一日
種類	史跡（墓・碑）
名稱	馬場轂里の墓
所在點	宗延寺
有者	一基
在地	宗延寺
者等	（宗延寺墓地内）
等数	

馬場轂里の墓

総高一六八cm、安山岩の山状角柱型塔の墓で、台石は三段である。正面向つて左侧面、裏面、右側面に天文方と測量御用を勤めシーボルト事件に蓮座した高橋景保（一七八五～一八五八）による轂里の事蹟文が、「幕末の三筆」といわれた市川三亥（一七七九～一八五八）の筆によつて書かれ刻まれている。

馬場轂里は天明七年（一七八七）長崎に生まれ、伯兄馬場貞歴の養子となりオランダ通詞の家業を継いだ。幕命により出府して「萬國全圖」の修訂に加わり、のちショメルの百科全書の翻訳にも参加した。文化一〇年（一八一三）には、二年前に捕われたロシア艦長ゴロウニンの取調べのため松前に渡り、短期間のうちにロシア語を修得し、我国最初のロシア語辞書『俄羅斯語学小成』一一巻を著した。文政元年（一八一八）、同五年（一八二三）イギリス船が浦賀に来航した際には、これの応接にあたつた。

轂里は語学の天才といわれ、ヅーフの『日本回想録』にもその才能を高く評価されている。オランダ語、ロシア語に関する著作は幕末期における我国蘭学、洋学の発展に大きく貢献したが、文政五年（一八二二）七月二七日三六歳の若さで亡くなり、宗延寺に葬られた。宗延寺は、もと下谷（現台東区東上野）にあつた日蓮宗の寺院で大正八年（一九一九）に現住所へ移転してきた移転寺である。

我が国近代化に大きな役割を果たした蘭学や洋学の発展に寄与した馬場轂里の墓所を示すものとして重要である。

【文化財所在地】

